

キーワード：他人との違いの理解、SNSの利用、画像の取り扱い、ネットの特性

I 研究について

1 本校の実態と課題

本校では、自分専用のスマホや携帯ゲーム機等インターネットに接続可能な機器を持つ生徒は約85%おり、「平日に平均どのくらいの時間ネットに接続しているか」という質問に対し、2～3時間と答えた生徒は28%で、3時間以上の生徒は13%だった。同様に休日の接続状況に目を向けると、2～3時間と答えた生徒は29%で、3時間以上の生徒が46%だった。使用目的としては、動画視聴が90%、音楽視聴が70%、ゲームが67%、SNS等でのコミュニケーションが40%の順に多かった。ゲームやSNS上でメッセージや画像、音声でのやりとりをすることが増えていることから、生徒同士のトラブルも発生している状況も見えている。

このような現状を受け、学校での「情報モラル教育」の取組として、校内研修や研究授業等を通して、生徒や教員がよりよい情報モラルについての態度や考え方をもてるようになるための指導の工夫が課題であると考えます。

2 年間計画

| | | | |
|----|----------------------------|-----|-------------------------|
| 6月 | 校内研修①（情報モラル教育についての確認、共通理解） | 9月 | 研究授業①（違いの理解、ネット特性） |
| 7月 | 校内研修②（指導内容の共有） | 11月 | 研究授業②（SNSの利用） |
| 7月 | 防犯教室（1年生対象：「情報モラル」） | 12月 | 研究授業③（画像の取り扱い） |
| 8月 | 校内研修③（研究授業①について） | 12月 | 校内研修④（情報モラル教育についての振り返り） |
| 9月 | 平田小学校【研究授業】参観 | 1月 | 年間のまとめ |

II 研究の実際について

1 校内での実践

（1）防犯教室（7月13日）



防犯教室は、一昨年度までは第2学年を対象に実施してきた。内容としては、本校の実態を考え、ここ数年は「情報モラル」についての講演を続けている。しかし、SNS等の利用の低年齢化を受け、昨年度は1・2学年が合同で受講し、今年度は1学年の1学期に開催するように変更した。

今回は、福島警察署から講師をお招きし、講話をいただいた。「便利なものを便利に使うために気を付けること」や「相手の立場に立って考える大切さ」など、改めて使い方について詳しいお話を聞くことができた。

感想には、「何気なく使ってきたけど、便利さだけでなく怖さを知ることができた」「相手の立場に立った上で、気を付けて使っていきたい」などがみられた。

2 校内授業研究会での実践等

(1) 情報モラルに関する研究授業<違いの理解、ネットの特性> (9月12日)

あなたは どう思う？

「あなたが友達から言われて『イヤだな』と感じる言葉は？」

まじめだね 一生懸命だね

個性的だね おもしろいね

あなたの答え

おとなしいね

Q. 友達から言われて「イヤだな」と感じる言葉は？

| 言葉 | 割合 |
|--------|-----|
| 一生懸命だね | 15% |
| まじめだね | 25% |
| 個性的だね | 40% |
| おもしろいね | 15% |
| おとなしいね | 5% |

本時は、SNS上でメッセージを介したトラブルが増えていることから、なぜトラブルが起きるのか「他人との考えの違い」に気付き、今後の生活に生かせるようにすることを目的とした。LINEと静岡大学が共同開発した資料（カード分類比較法、LINE画面のメッセージのやり取り例）を一部変更したものをを用いて考えさせた。

同じ絵やイラストでも
人によって言葉やイラストの
とらえ方がちがう

A 『すっこく』おもしろかった気持ち
B 『ちょっとだけ』おもしろかった気持ち
C 『少しバカにした』気持ち

MetaMoji Classroom を利用し、5枚から「友達にされたら嫌なこと」を選び、他人と比較することで、人により「嫌なこと」に違いがあることに気付かせた。

また、LINEで使われるスタンプを表示し、どのような感情を表しているのか考えさせることで、違いがあることに気付かせた。

授業のまとめには、「自分はなんでもないものでも、相手は嫌だと思っていることがあるかもしれないことがわかった」「文字やスタンプだけではうまく意思疎通ができないことがわかった」「便利だけど慎重に使わないとトラブルに発展してしまう」など、自分と他人との考え方、感じ方の違いを実感しているまとめが多くみられた。

(2) 研究協議会の様子

○ 講師：前桜の聖母短期大学 教授 リメディアル教育センター長 加藤 竜哉 様



研究協議会では、まず初めに6つの分科会に分かれ、授業について意見や感想を話す時間を設けた。「スタンプの受け取り方があんなに異なるとは驚いた」「あれだけ受け取る感覚が違えば、トラブルは起きる」「良い点、悪い点をきちんと理解させるような授業を展開できるようにしたい」との感想や意見が共通してあった。

講師の加藤先生からは、SNS等でのメッセージのやり取りで起こり得る具体的な事例や要因についてお話があった。道具としては便利だが、文章でのやり取りよりも文字（単語）によるやり取りが多く、グループで利用する場合、誰がどのタイミングで反応しているかがわかりづらいことがトラブルに発展する事例を提示していただいた。

またSNS上だとしても、同じコミュニケーションであるので、表現能力の向上も大切

であり、本質をしっかりと伝えるためには、教科等横断的に日本語表現の向上を目指す必要があるとの助言をいただいた。

(3) 情報モラルに関する研究授業〈画像の取り扱い、ネットの特性〉（12月9日）

生徒1人1台のタブレット配置がなされ、インターネットが身近になり、関心も高まってきている。本時は、インターネットを安心・安全に利用するために、インターネットの特性を理解し、効果的な利用ができることを目的とした。

「よりよいコミュニケーションのために」 (3ページ)
＜考えてみよう＞
あなたは、どの写真をネットに公開しちゃう？
公開してもいいと思うものを
上から並べて並べてみよう。



「ふくしま情報モラル診断」のアンケート結果を振り返り、生徒自身の情報モラルについての現状を知ることを導入とした。また以前同様に、LINEと静岡大学が共同開発した資料の一部を活用した。5枚の画像を比べ、インターネット上へ公開可能か考えさせた。

公開可能か判断する根拠について、それぞれが自分事として捉え、意欲的に意見の共有ができていた。

その根拠には「ネットの特性」が大きな関わりをもっていることに気づき、インターネット使用時に意識しなければならないこととして、理解できていた。

「よりよいコミュニケーションのために」 (4ページ)
ネットの**特性**として理解が必要なことは、

- ① 公開した写真は、 **いろいろな人が見る** 可能性がある。
- ② 公開した写真は、 **すぐに広がってしまう。**
- ③ 公開した写真は、 **消すことができない。**
※ これは、 **デジタルタトゥー** と言われている
- ④ 公開した写真は、 **場所がわかる** ことがある。

(4) 情報モラルに関する研究授業〈SNSの利用〉（12月12日）

本時は、一般財団法人日本情報化振興会が公開している「ネット社会の歩き方」の動画資料の中から、生徒が巻き込まれやすい3つの事例（悪質な書き込み・リアルな情報の発信・なりすまし）について取り上げ、トラブルの原因と対策、万一トラブルが発生した場合の対応方法について班で考えた。グループに分け、各事例について個人→班→全体の流れで考察し、共有を図った。



各班で話し合った内容について、MetaMoji ClassRoom のグループ学習ページを利用して各自の分担箇所を記入させたが、どの班も意見交換の結果をきちんとまとめていた。その後、完成したページを生徒一人一人のiPadに表示しながら発表させたため、全員で発表内容をしっかりと聞くことができていた。

続いて、同じ「ネット社会の歩き方」の Web ページからダウンロードした SNS シミュレーションソフトを利用して、既読スルーによる仲間外れの例を取り上げた。これは、SNSでのやりとりをブラウザ上で再現するもので、生徒用 iPad では操作できなかったため、代表生徒が教師用タブレット PC で操作したものを Webex Meetings を使用して、そのまま転送した。目の前で展開する SNS のやり取りに、生徒たちは自分事として捉え、「寂しい」「悲しい気持ちになる」などの感想が聞かれた。

最後に、これまでに学習した SNS のトラブル事例に関して、共通の原因を考えさせたところ、「よく考えずに発信したこと」「『いいね』が欲しくてやってしまったこと」「SNS を使うときちゃんと考えていなかったから」「自分のことだけ考えて、相手の気持ちを考えていなかったから」などが挙げられていた。

(5) 研究協議会の様子

○ 講師：前桜の聖母短期大学 教授 リメディアル教育センター長 加藤 竜哉 様



研究協議会では、まず初めに 6 つの分科会に分かれ、授業について意見や感想を話す時間を設けた。「最初に 3 つの動画を見たが、3 つは多かたのではないか。まとめの時間が不足していた」「SNS シミュレーションソフトは生徒たちも熱心に見ていた。導入で使う方法もあると思う」「短くわかりやすい動画だった。これなら自分でもできるかもしれない」「MetaMoji Classroom が効果的に使われていた」などの感想や意見が活発に出されていた。

講師の加藤先生からは、ワークシートと MetaMoji Classroom を併用していたことについて「紙媒体と ICT 機器がその特性を生かして上手く融合できていた」との話があった。さらに、『友達の作り方が問題だ。アプリで作ろうとしたからトラブルが起こった』という意見があったが、『友達を作る？ 作らなくてもいい？』と問いかければ生徒を揺さぶるチャンスだった。『他の生徒の問題は自分の問題、自分の問題は他の生徒（みんな）の問題』と捉えることができたはずである」との指摘があった。

その後、ICT リテラシー全般に関してご指導をいただいた。具体的には、

- ・子どもたち（高校生まで）が情報を得る手段として、TV は 2 % しかない。テレビがスマホに置き換わったことには、どんな問題があるのか。
- ・乳児、保育園、幼稚園からの教育は必要か。それは何か。
- ・小学校と中学校の信頼関係に基づく情報共有（チーム内守秘義務あり）は、校長間だけでなく、教員全体で共有する必要がある。
- ・縦断的、横断的連携をする際の問題点、課題は？

などの内容についてご指導いただいた。ICT 化だけではなく、教員として普段忘れがちな視点を再確認するよい機会となった。

Ⅲ 成果と課題について

1 成果

- 校内研修や外部との連携を図る機会を設けることで、知らなかった知識や指導法、教材に触れることができ、情報モラル教育における重要な視点や注意する点など、今後の指導に有効なものが確認できた。
- 生徒、教員ともにSNS上やインターネットでのトラブル事例などを知り、自分事として考えることができるようになった。
- 実態調査アンケートにより、学校の現状に合わせた指導に取り組むことができた。

2 課題

- 教員間で資料の共有や実態に合わせた授業への取組について、積極的な呼びかけや提案が必要であった。
- 学校と家庭の連携の強化が必要である。学校での取組を伝えたり、家庭からの意見を取り入れたりしながら進めることができるとより効果的になると感じた。
- 情報モラル教育の推進のためには、教員自身の知識の向上も必要である。3年間を見通した指導計画のもと、全校で取り組んでいく必要がある。

<参考資料・サイト等>

一般財団法人 LINE みらい財団・静岡大学・静岡市教育委員会 共同制作.「SNSノートしずおか」.【児童・生徒向け】

小学校低学年<1> https://d.line-scdn.net/stf/linemiraicorp/ja/events/snsnoteshizuoka_1.pdf

小学校中学年<2> https://d.line-scdn.net/stf/linemiraicorp/ja/events/snsnoteshizuoka_2.pdf

小学校高学年<3> https://d.line-scdn.net/stf/linemiraicorp/ja/events/snsnoteshizuoka_3.pdf

中学校<4> https://d.line-scdn.net/stf/linemiraicorp/ja/events/snsnoteshizuoka_4.pdf

(参照 2023-03-01) .

一般財団法人日本情報化振興会.「ネット社会の歩き方」. ※動画資料

<http://www2.japet.or.jp/net-walk/> (参照 2023-03-01) .